

記者発表資料

平成26年度 京浜港湾事務所の事業概要について

京浜港湾事務所では、コンテナターミナルにおける効率的な荷役の実現や輸送コストを削減することによる「産業の国際競争力強化」を目指し、国際コンテナ戦略港湾「京浜港」の一角である横浜港、川崎港において、大水深岸壁を有したコンテナターミナル及び臨港道路等の整備を行うとともに、大規模地震が発災した際に、発災直後から緊急物資等の輸送や、経済活動の確保を目的とした耐震強化岸壁の整備等を行っています。

平成26年度の京浜港湾事務所の主な事業は以下のとおりです。

横浜港においては、南本牧ふ頭地区で水深18mの耐震強化岸壁を有する大水深コンテナターミナルの整備を実施し、本牧ふ頭地区では、コンテナ船の大型化に対応するため岸壁の増深、及び耐震改良を実施します。

また、南本牧ふ頭、本牧ふ頭を結ぶ臨港道路を整備し、各ふ頭間におけるコンテナ輸送の効率化を図るとともに、南本牧ふ頭と背後の高速道路ネットワークとを連絡することで、南本牧ふ頭と内陸部間の輸送効率の強化を図ります。

川崎港においては、東扇島地区の物流機能高度化に伴い増大する交通量に対応するため、東扇島地区と内陸部を結ぶ臨港道路の整備を行います。

発表記者クラブ			
竹芝記者クラブ、神奈川県政記者クラブ 神奈川建設記者会、横浜海事記者クラブ 川崎記者クラブ			
問い合わせ先			
所属	国土交通省 関東地方整備局 京浜港湾事務所		
氏名	副所長	おさない かつひこ 長内 勝彦	(内 102)
	統括建設管理官	こんどう たかみち 近藤 隆道	(内 103)
	第一工務課長	ちば てるお 千葉 照夫	(内 300)
	企画調整課長	みうら けん 三浦 健	(内 330)
電話	045-226-3763		
FAX	045-226-3756		

横浜港 南本牧ふ頭地区

[岸壁(-16m)(耐震)(MC-3)、岸壁(-18m)(耐震)(MC-4)、荷さばき地(MC-3)]

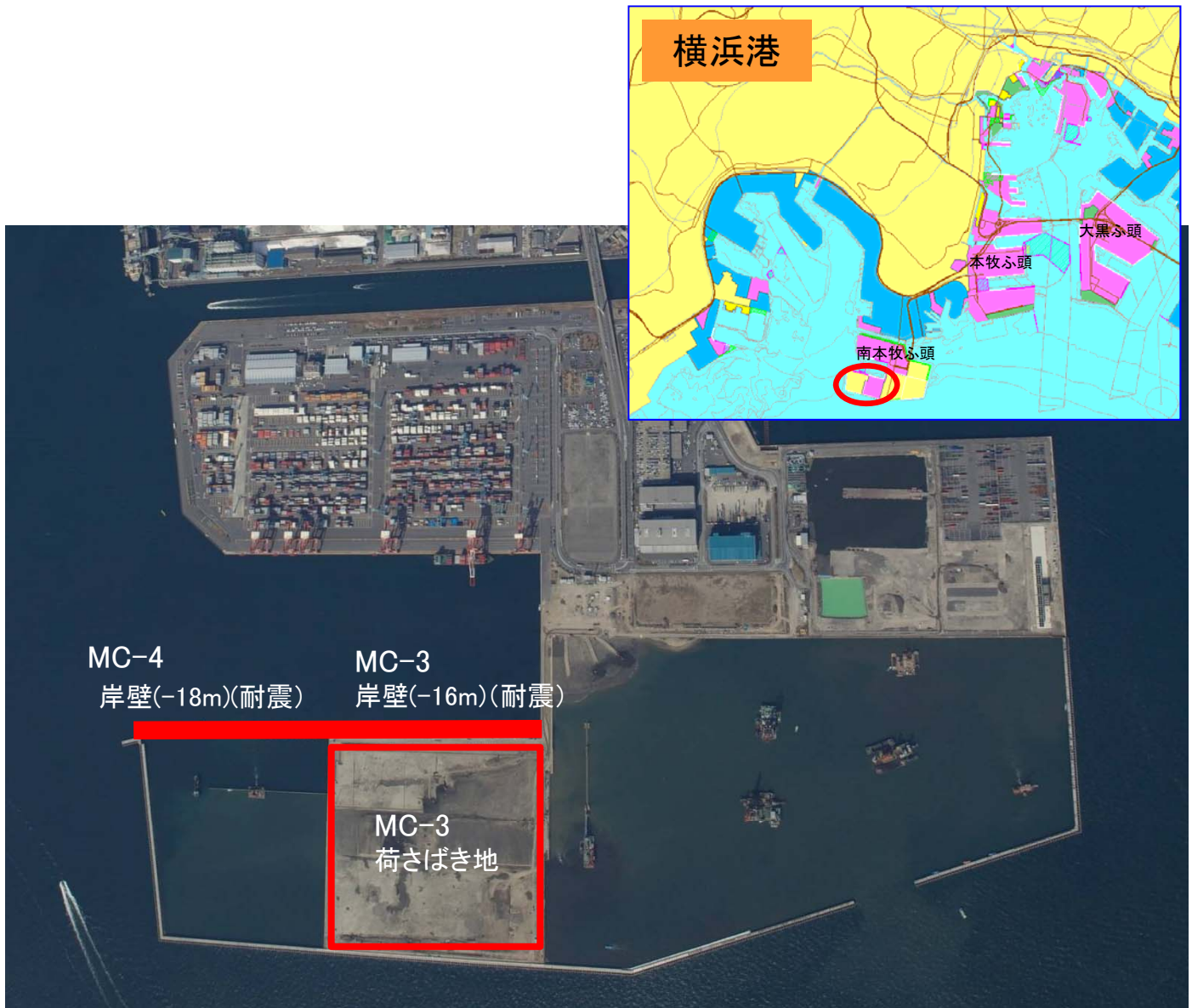
平成26年度事業費:約32億円

南本牧ふ頭は、横浜港のコンテナ取扱量の約3割を占める重要なふ頭です。増大するコンテナ貨物量やコンテナ船の大型化に対応するため、また、大規模地震発生時の幹線貨物の輸送拠点としての物流機能を維持するため、我が国最大級の水深16m、18mの岸壁を有するMC-3,4岸壁(耐震)及び荷さばき地の整備を進めています。

平成26年度は、以下の工事を行います。

MC-3: 舗装工、排水工等

MC-4: セル製作・据付2函、地盤改良等

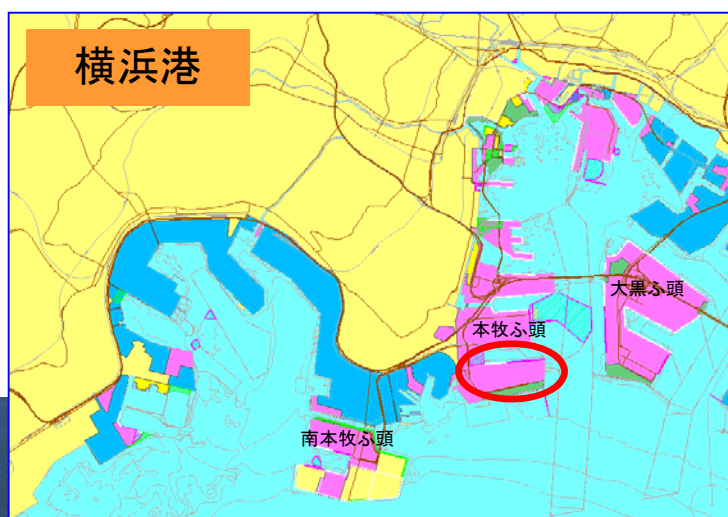


横浜港 本牧ふ頭地区

〔岸壁(-16m)(耐震)(改良)(HD-4)〕

平成26年度事業費:約3.2億円

本牧ふ頭は、横浜港で最初のコンテナふ頭であり、全体のコンテナ取扱量の約6割を取り扱う我が国でも枢要のコンテナふ頭です。D突堤は供用開始から40年以上経過しており、コンテナ貨物需要の増大及びコンテナ船の大型化に対応するため、HD-4岸壁について、水深(-14m)から(-16m)への増深及び大規模地震発生時の幹線貨物の輸送拠点としての物流機能を維持するための耐震改良を行います。平成26年度は、上部工等の工事を行い、HD-4の耐震改良を完了させます。



横浜港 南本牧～本牧ふ頭地区

〔南本牧～本牧ふ頭地区臨港道路整備〕

平成26年度事業費:約134億円

南本牧ふ頭は、横浜港のコンテナ取扱量の約3割を占める重要なふ頭です。本事業は、①コンテナ取り扱いの主力となる南本牧ふ頭と本牧ふ頭を臨港道路で連絡することにより、ふ頭間のコンテナ輸送効率化を図るとともに、②南本牧ふ頭と背後の高速道路ネットワークを直結することにより、横浜港の集荷環境を強化します。また、③南本牧ふ頭のアクセスの多重化を図ります。

平成26年度は、第1期区間について下部工、上部工、栈橋築造工等の工事を行います。



川崎港 東扇島地区

〔東扇島～水江町地区臨港道路整備〕

平成26年度事業費:約76億円

川崎港東扇島地区は、川崎港で陸揚げされる貨物のみならず、京浜3港の連携の中で東京港・横浜港利用の貨物の物流基地としての役割も果たしています。今後、東扇島の物流機能の高度化によりますます物流拠点としての役割が増すため、東扇島と背後を結ぶ交通体系の強化を図るとともに、東扇島地区のアクセスの多重化を図ります。

平成26年度は、仮設工、調査設計、用地補償等を行います。

